

# サッカーの試合におけるスローインの成功率と勝率の関係性 に関する研究

～2010年FIFA W杯南アフリカ大会を例に～

山内 秀一郎(競技スポーツ学科 コーチングコース)指導教員 松田 保

キーワード：スローインの成功率、投げる方向、勝敗の行方

## 1、緒言

昨年、南アフリカで2010FIFAワールドカップが行われた。日本代表がパラグアイに負けはしたものの日本全土が感動の渦に巻き込まれた事でも有名な大会だろう。そして、そこで優勝を飾ったのがスペイン代表。日本と体格は変わらないスペインが世界を圧倒したポゼッション率で優勝を飾ったのだ。ではなぜスペインが優勝することができたのだろうか。シュート決定率が良かったのか、パスの成功率が良かったからなのか、たくさんの疑問がでてきた中でスローインの成功率はどうなんだろうと気になった。そこで私は本研究でスローインの成功率が試合の勝率にどのような影響を与えているのかを研究し、今後どのようなスローインが有効なのかを研究で明らかにする事を目的とした。

## 2、仮説

・スローインの成功率は勝率に比例する。  
スローインはパスと一緒に、成功率が上がれば上がるほどチャンスが増える。よって、成功率が上がるほど勝率は上がると考える。

## 3、研究対象

・2010FIFAワールドカップ南アフリカ大会

決勝トーナメント (全16試合)

## 4、研究方法

以下の7通りに分けて分析をする。

①前に出す

②後ろに下げる

③相手を背にした状態で出す

④ボールをもらった選手が前を向く

⑤スローインを出した選手にボールを戻す

⑥失敗

⑦ロングスロー

## 5、研究結果

- ・全スローイン本数 680本
- ・スローインの成功本数 538本
- ・スローインの失敗本数 142本
- ・全試合スローインの成功率 79, 1%
- ・成功率と勝率が比例しているチーム  
16戦中6チームだけ

## 6、結論

成功率は勝率と比例するというのは、低い結果に終わった。しかし、準決勝以降の試合では成功率と勝率が比例しているチームしか勝ち上がっていなかった結果から、上に上がるほどスローインの成功率もパスの成功率と同様に重要なものになるということも今回の研究で明らかになった。

## 参考文献

2010年FIFAワールドカップ 決勝トーナメント DVD

中島孝志：なぜ「オシム語」は人を惹きつけるのか？ 廣済堂出版